北陸

Tech&Unique

業務用台車

柔軟設計、機能も意匠も

金沢車両

ホテルに強み 海外拡販狙う

金沢車両（金沢市）はホテルや工場、医療機関など様々な場所で使われる業務用台車を手がける。ホテル向けは国内で約9割のシェアを誇る。品質の高さや顧客の要望に応じて柔軟に設計する技術力を強みに成長し、海外販売にも力を入れている。

創業は1932年。米俵を運ぶ大八車の製作から始め、農業用車両などの部品の下請けも手がけるようになった。79年にホテル向けの台車を自社で企画、製造を始めた。ホテルの建設が全国各地で増え、台車の需要が高まると判断したためだ。後発メーカーだったが、値ごろ感などもあり徐々に販路を拡大していった。

現在の主力製品の一つがスーツケースを運ぶ台車だ。荷台の上に、鳥かごのようなステンレスのフレームが付いている。ホテル名を表示するプレートを付けることも可能だ。小倉宏允社長は「意匠が重要。曲げや溶接の技術で美しく仕上げる」と説明する。確かに近づいてフレームを見ても、継ぎ目が見えない。

台車を動かしてみても、ほとんど音がしない。「高品質のベアリングなど国産の部品を使っていることが大きい」という。大量生産に対応できるが、ホテルの要望に応じて大きさや素材を変える受注生産にも強みを持つ。

顧客の声を踏まえ、様々な台車を開発してきた。例えばシーツをのせるリネン用台車。かつては鉄のみでできていたが、軽量化の要望を受け、樹脂の部分を組み込んだ製品を出した。台車を使う人の安全性を配慮し、ハンドブレーキ付きの製品にも力を入れる。

品質への評価は高い。豪華寝台列車のサービス用台車、ホテルを舞台にした映画の撮影で使われた台車にそれぞれ採用されたこともある。2021年の東京五輪・パラリンピックでは関連施設向けにスーツケースなどを運ぶ台車を特注でつくった。

22年12月期の売上高は約22億円。ホテル向けが4割、工場と医療機関、小売店向けが3割、その他がオフィスなどだ。新型コロナウイルス禍でホテル向けの受注が減ったが、他の業界向けがカバーし売り上げの落ち込みは少なかった。

円安基調を受け、輸出を強化する。小倉社長は「日本でのノウハウの蓄積を海外で生かす」と意気込む。現在の輸出先はヨーロッパや中東が中心で、売上高に占める輸出比率は3%程度。今後はマレーシアなど東南アジアで拡販を目指す。

（石黒和宏）

金沢車両のホテル向け台車

黒米対応／異物

日本食ブ

長粒種向けの精米機（タイの店頭で売る家庭用精米機）

中国で展開する精米機

の文化が根付いているため、コメの表面の殻を取り除く「もみすり」の機能に注力した。黒米は玄米の状態で食べるのが一般的で、玄米の形がきれいに出るようにした。

アジア向け精米機の開発は、同社が2017年にタイに進出し大きく進展にしている」と話す。

東南アジア向けの精米機には、ゴミなどの異物を除去する機能を持たせた。精米前にコメを地面で乾かすことが多く、石やちりが付着する傾向にあるからだ。経済成長が進んだ店頭向きの精米機にも力を入れている。コメ文化が根付いていない地域での需要も見込まれて

能登ヒバ香る発泡酒

フルタニランバー 木材の用途開拓

木材卸のフルタニランバー（金沢市）は、石川県の能登地方を中心に分布する能登ヒバのチップで香り付けした発泡酒を商品化した＝写真。クラフトビールを手がけるオリエンタルブルーイング（同）と連携した。木材の新しい用途を開拓する狙いがあるほか、能登ヒバの知名度向上にもつなげる。

商品名は「森のビィル ひばのわ」。一般的なビールよりアルコール度数が高い「バーレイワイン」と呼ばれるもので、麦芽風味が強い。ゆったりと落ち着いて飲むのに適しているという。330ミリリットル入りで、希望小売価格は880円。フルタニランバーの電子商取引（EC）サイトや金沢市内の飲食店などで扱う。

能登ヒバは耐久性が高く、住宅の土台や水まわりなど建築部材に使われることが多い。同社は新たな用途を開拓しようと、楽器メーカーと能登ヒバで楽器をつくるプロジェクトに取り組んでいる。新たに食の分野に挑んだのが今回の商品で、「楽器を使うイベントとも親和性があると考え、アルコール飲料にしたとしている。

年で2倍以上になった国内で使う精米機の輸出もにらむ。

23年2月期の売上高はすべて一さかほまれ」を使う方針を打ち出し、今回は初めてその酒かすを焼酎の原材料にした。

安全と清潔を売る包装の
株式会社 大樹（ダイキ）
富山県射水市布目沢201
TEL (0766)53-1331(代)

地域の風

防災力再生 スマホに託す

リヤカーによる高齢者の搬送を訓練する（東京都日野市の南新井自治会）

災害の初期段階で住民の安否確認や救助に大きな力を発揮する町会や自治会だが、住民の高齢化やマンションの増加などで加入率低下に歯止めがかからない。関東大震災から100年。首都直下地震も想定されるなか、各地の自治会ではSNS（交流サイト）による安否確認や無線機の整備など、細る地域の防災力の維持に腐心する。

今年2月、京王線の高幡不動駅にほど近い東京都日野市の南新井地区で、住宅の玄関先にタオルやTシャツが掲げられた。地元の南新井自治会による災害時の安否確認訓練だ。手軽な白い布で世帯の安全を伝える。「白いハンカチ運動」と呼んでおり、意思表示のない世帯の安否確認に専念することで、被災状況の早期確認につなげる。

「これをLINEでつなげたい」。自治会の伊藤裕造さん（64）は、家に閉じこもりがちな高齢者向けにスマホによる「デジタル白いハンカチ運動」に取り組む。玄関先に掲げる代わりにスマホで安否を連絡する。平時でも回覧板やイベント案内をスマホで見られるようにと、自治会公式のLINEアカウントでの情報発信も始めた。

同地区は高度成長期に宅地開発が進み、現在は一人暮らしの高齢者も増えた。自治会の加入世帯は183で加入率は2割と低い。周辺の大学に通う学生など加入しない若い世代が目立つ一方で、健康上の理由で退会する高齢者も少なくない。

地域のつながりの希薄化は都市部の深刻な課題だ。東京都によると、2022年4月現在で町会や自治会などの「地縁団体」は約9000。団体数は10年前と大きく変わっていないが、加入率の低下傾向は止まらない。

八王子市は町会の加入世帯割合が09年度の64・8%から20年度には55・6%に低下。墨田区も1998年度には80%を超えていたが、2022年度には65%を下回った。

消防など公的な救援が来るまでの地域の助け合いは、持病悪化など災害関連死の原因を減らすことにもつながる。阪神大震災でも、倒壊したがれきの下から救出された人の8割が家族や近隣住民によって救出されたという調査結果がある。

都は8月から自治会など2800団体を対象に、発電機や無線機といった防災資機材の購入に30万円を上限に助成する。沼倉護地域活動推進課長は「まずは地域の防災に何が足りないのかを知りたい」としており、衰えが目立つ防災力の現状把握につなげる。

災害時には孤立や介護など生活上の課題がより深刻な状態となって表面化する。南新井自治会も携帯トイレや無線機などの助成を申し込む方針。防災機器の整備を通じて平時の住民の暮らしを知るきっかけとする。「スマホを使った近隣との交流を地域インフラにして、高齢者の見守りにも生かしたい」。伊藤さんはそう考えている。

（和佐徹哉）

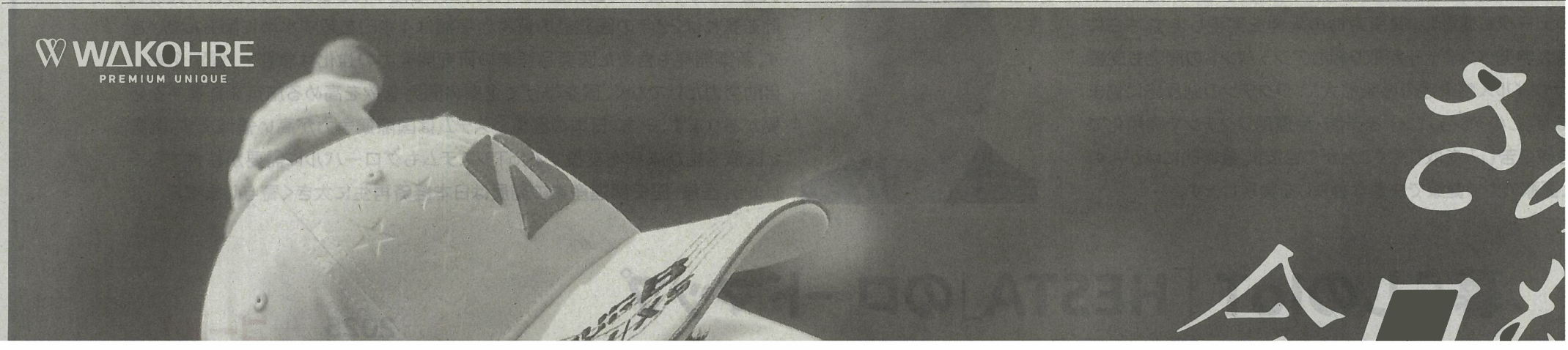
北陸新幹線のお盆予約49%増

JR西日本金沢支社は27日、北陸地区を中心とした列車について26日時点でのお盆期間（8月10～17日）の指定席予約状況を発表した。北陸新幹線の「かがやき」「はくたか」の予約席数は前年比49%増の約13万席。新型コロナウイルス禍前の2018年比では95%の水準となった。新型コロナの5類移行などを受け、旅客需要が回復している。

在来線特急の予約席数は大阪と金沢を結ぶ「サンダーバード」が前年比65%増の6万席。名古屋・米原と金沢を結ぶ「しらさぎ」が同70%増の2万2000席だった。18年比ではそれぞれ81%、85%の水準となった。

予約率は北陸新幹線が31%、サンダーバードとしらさぎが30%を下回っている。同社は「一部の列車を除けば、まだ十分に空席がある」としている。

北陸銀、M&Aで地域貢献大賞

北陸銀行は27日、M&A（買収・合併）仲介を手掛ける日本M&Aセンターが地銀などを表彰する「M&Aバンクオブザイヤー」で、「地域貢献大賞」と「バンクオブザイヤー」を受賞したと発表した。M&Aの受託や成約の協業実績に優れ、地域経済の発展に寄与したことなどが評価されたという。

配達・購読のお問い合わせ
0120-21-4946
7時～21時
金沢 076-232-3311
富山 076-432-4463
福井 0776-22-3490